



# おれんじだより



おれんじだよりは、毎月認知症に関する情報を紹介しています。今月は若年性認知症についてです。

## 筆者紹介

★写真左

社会福祉法人 仁至会  
認知症介護研究・研修大府センター  
主任研究主幹  
作業療法士 齊藤 千晶

## 筆者紹介

★写真右

愛知県若年性認知症総合支援センター  
若年性認知症支援コーディネーター  
社会福祉士 田中 真弥



## 若年性認知症の基礎と支援

### 1. 若年性認知症とは

認知症は一般的に高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合を若年性認知症と言います。若年性認知症の人数は全国に約35,700人、豊田市では約200人と推計されています。若年性認知症の人とその家族は、病気の特性と社会的な背景等から孤立しやすく、就労や家事、育児等の複雑な課題に直面しやすいため、多分野に渡るオーダーメイドの支援が求められます。

#### 【若年性認知症の人の特性と直面する状況や課題】

- ・ 好発年齢は50歳代と若く、男性の割合が少し多い
- ・ 初発症状が認知症特有ではなく、診断しにくい（うつ病や更年期障害等と間違われる場合もある）
- ・ 異常であることには気がつくが、認知症とは思わず受診が遅れる
- ・ 身体機能が保たれていることが多く、一見して認知症の症状が軽く判断されやすい
- ・ 働き盛りの年代での発症のため、経済的な問題が大きく、就労支援を必要とすることがある
- ・ 主介護者が配偶者に集中し、時に両親等との複数介護となる
- ・ 家庭内での課題が多い（家事、育児、就労、子どもの教育・結婚等）
- ・ 社会や家庭で中心的役割を担っているが、その継続が難しくなり、心理的に不安定な状態になり易い

### 2. 若年性認知症の人の支援

若年性認知症と診断されたとしても、直ぐに何もかもできなくなるわけではありません。ご本人やご家族、周囲の病気への理解や環境を整えることで、働くことや家事等を継続することができます。また、様々な社会保障制度やサービスを利活用し、経済的支援や生活の再構築を図ります。そのためには、早期からの診断や対応が重要です。特に、働いている人は職場内で周囲だけでなく、ご本人も異変を感じていることが多いです。悩みを抱え込んだり、離職等の重大な決断を急がないでください。まずは、医療機関への受診や下記の相談機関にご相談ください。

### 3. 相談機関

愛知県若年性認知症総合支援センターは若年性認知症に特化した相談機関で、専任の担当者が対応します。ご本人やご家族だけでなく、勤務先の企業や専門家等からの相談にも応じ、医療・福祉・就労等の総合的な支援を行います。2016年から開設し、昨年度は約950件の相談があり、相談件数は年々増加しています。認知症が疑われる段階や匿名でも相談が可能です。ぜひ、お気軽にご相談ください。また、豊田市内では市役所の高齢福祉課や地域包括支援センターで相談に応じることができます。

